

五

平家物語巻第又目錄

新やこつりの事

わうまうをゆくほろおとふめまうほろ

都うつりせんまらうの事

ちんこのいほめのもろ

とく大なるやうらくしほふ事

魚いあらまといのれろ

お母もらうちんのもろ

いんやうまうのろ

又孝上人まらんしんらやうの事

りんくく上人おさいのれろ

あつげ園東よりおあ上らお事



大し一をうゑれり
るいあ都り龜王の事
なんやあつこうの事

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]



平家物語巻第...

治承四年六月三日入る志やうあくの邊より志
川にてふよつれ流さ少くはくを都より三つらる
しとてまゝにける日流もななくを流さつら
つともまゝにさきんまやうれかしくを移もし
るにさるとのとして上下さしえあもれたり三日と
あしめられおらう一昨日の夜あきて二日此
方のしくおまやうわうなるまじらう志の流と
三の流とうよまやかこうしうまう世流ふも人か
まじあんとしうれえなり平家物語時たるのをや
うの流のわさう川のすけぬるまじまじらう

式三日福原を去りてせむふ入るしやうあはれ志や
ていつけの申あうんもちこもりれまがの志ゆ
ぬ志よしくいりふまよふなりおきり一死回日りのこ
屋うそしよりまの志二位志こまひるこ九条との
の志子た大御り一かられまやうあしうれたまふ
せうろくれまんとらのもんししういふのいあ
られたまぬるしこれほ一あやうあぬらる
あうまうとぬくほらふまよふめまうぬらる
ほうまうやあそのまをちと島解のよまをしこ死
られてわらうと世評一派えれの右大将ひのちりお
こす一申されしよまをてこまのまをて
なりて八束うらふまあひのひやくとんかんのほら

く入海のしきりれらう一の又たうらまは家の
清びやんふもちて入るたまよつりあてあんとん
こがりとかくりらぬなりまらあめんよまをてこ
と一に一あうらうまにまのしこやとほらりて
とししこめ系らせまのあのかうまやほらとの大
次にねり派そいりるま外をまららあはく人をな
ままうやましこれとらうのれまよらまのりるま
らまうましく一あのまはししうまを御事なり
まらまらまらりんまの浩まうりまとまの志あ
しうまらまやまの御一死それまはくまをて
まやう一して清むままらまをてまらまをまをてお
かまられらるま入るお國力うくまやうまを

りてそいやはらしまるぬりしし安元よりにはびく
ぬくればひしやうらんがくとあひぎあひ
あつひやうひし國白紙あひをりて二徳の申
ぬくのよらんそくふくはうらうと馬羽
ぬよをししあめたてまらして才二代あ子とんを
乃うりとけいあゆのしあてうらうらうらう
うらひひまはつたのこ紙あしてうやこらうらな
まそつと志願ふふらうやじんしのさ

部うつりせんともうの事

部うつりをあまきんちようはふらうし部あ天
皇や比排ふ代の事つらうやあといきすのみこ
との事田の五子つらうをんはよれあめ天祥七代

比排め代才二代のついでにはあま五つてふらりの
のこのころはとらひうりの國見えだのこりよ
して皇子のむらそそつふふ十九年といひひ一
られとのひらししのこり十丹うらうせいし
けしちやまこと代國となつひるやまのけい
中一國よとまりうねひの山あてんてをい
がくとむけのらとそりしりふこまうをい
はるこのひきはとらしり入まにかけく
ふらよびく代これ見うらうやあをたあくたしよ
あうのさびく事し三才よあまり回すやまをよ
ありあんじてんわらもちあひのり天しうまて十
二代をやまとのらふはありしう部とたあく

ししうのふれはちのれとかくじ天日う元年ふ
やまといふくふまのあふまのめをいづくうつりて
のこかりするふらうあひてんせう二年お
あふらの國うのれもものふようつりてとふら
のこかりふすえつふうれ國のこかつらうてつ口
つくまら幾つてつしふられちんせううらまうこら
代とらげとらせふまひいふたふとてちんらと
くまのむらうらけいけいあくあてうらちんせう
ませのひいふくれいとまのあめをせつぐはら
くせんれくふみくこいふこかまらうてまらうした
じきやうちりきれうらてそとこらつてうらうの
えとやまそりうつぐくぬのほをわうちんたはら

とらまののまらものこらあなふをくこのほもす
まら仁とてんせう元年の國なふとおふら
うてうらけらやまほつらうてんせう二年
うらげとらとのあをうらてとれちのゆをみす
えつふとんせい天皇元年もやまとのあちうて
ちのたにううつりてちしうあふ見やうてん
あよりしけうてんせう四十二ねんよなりとやん
のそふよりあつてとれちれあすらのこやふてん
たふあゆうのやまてんせう廿一年よなりとたり
あくしうのあさくうらみやことたつあふたの
てんせうふねんよまとの國うのやまらあふのく
うらけくまらうつりて二ほうれくちとてん

小文のまじりてふせんらま天皇元徳んよげ城やま
と。いかにしてひやくぬいれぬく見せおほくは
ゆきんづいひんらうらうゆふ志のしゆんすいふ
志よついでくまきよくまて七代をりをやらたの
國承くうり教とたそたあくすしうのうれをし
れをううく天皇たらまえはよやまにれらふよ
う州代國なりうううつりてこようれのみやう
そこのふさいめいてんまう二年に金まをより包
里してありこのうやふとこのうみ天比らんまう六
ねん小尾八とらふまうあみ代國よりつりて
大川れみ屋をけくすいふたゆあまきときよんほれ
てんまうとてんじてんまうえねんらうのうとや

まじりてありてそのりては菊乃らやう一徳治
ゆらうりんじ二代のせいとうやとうあく藤原
乃らやます見ゆふらんづいりんふしやうじゆ
らんをいさいせうやまきくふりま七代をり城を
り國承の都よすえのふしりれをらんむてん
まは延暦三年十月二日なりたまうのうとよ
ま山ちあゆらにたれとふうつりて十年あいの
まじり小を見ゆふおらうふらんやう十三年の
月三日たおらんゆらけうのうくろ海ららんさ
大船んまのこさふとけのけりてうあくこの
のこかりうとひうとえきしじのぬんくまうそ
うしせいしゆのてんみらるは志やううらう

ひやくこちんちゆーやくまらんじ回ちんさう
おうれ味なりりてひてふと成ゆさび廻さしたよ
まありとしよてとたさのこありまうますのそ
の大明神おほま中一う敷のて同さ十月廿一日た
らさのれまひうもるいめんしやうようのれ
きていもう三十二代ごのりう二百八十よさいれ
ま秋どくとりびしふきまう國く前く廻教と
けされしうきく現せう地をひまうとてし
じんび天皇しうふ志のとお解ししつち辰ふ
まふたうれさいしんし候あもきくまら書久なる
志ゆいそしけらまてハ尺の人しとけらりら
うのりらひのゆと張えせらるるこれゆをやと

もたきて赤山のうら母お海ひふふたてくさうつ
まけら母のすえよなりては部派たあくるうの
物ちうしと由こちんとなるアしとを清せいやく
さけらされえてらんうおるりのりてめんとてさ
けのりれらすのいとうま御軍のけりて今入り
ありくらんじ天皇とアをま家のせんうておん
まます中しうもは教と平めん志やうとなつて
をたひらりふおやまきうやくとのわりをまを
のあうまてふ部さつと答所のれくうてふの時
魚いせいのせんでいなんししりてふのすくめ
まうてすまふしやあをたあくるうのう敷
と大后くまやうとあく七下りの人みん百志や

うらぶつて取まてうきる中しりし河井ふりつさ
ききてやまよみのくしひなくも一夫の志業せ
うれわたりたふもたやまをうのしし汚らぬや
はと入るお國。きんしのかたしそりけられけり
うらぶつて取まてうきる中しりし河井ふりつさ
ききてやまよみのくしひなくも一夫の志業せ
うれわたりたふもたやまをうのしし汚らぬや
はと入るお國。きんしのかたしそりけられけり
うらぶつて取まてうきる中しりし河井ふりつさ
ききてやまよみのくしひなくも一夫の志業せ
うれわたりたふもたやまをうのしし汚らぬや
はと入るお國。きんしのかたしそりけられけり

こから入つりたふくみうりも志さのあうきと舟
おほもゆくはうへもさひらこしあれものふを
たうらふし人たすよぬ目とるほくあれゆきてたの
都そなくなりよぬなりとたりうらふしあうたれ川
とくかりまひらうりもふゆきたたりあれも車子
とのたをさくゆふのうみももはうとぬれまゆ
く人と小車うたりみらうへくうとれまをれい
あひらそのふをさくまらん少るさくやあの大さの
はらふ二志のれまうそつまはききる

もこせ取まてうきる中しりし河井ふりつさ
ききてやまよみのくしひなくも一夫の志業せ
うれわたりたふもたやまをうのしし汚らぬや
はと入るお國。きんしのかたしそりけられけり
うらぶつて取まてうきる中しりし河井ふりつさ
ききてやまよみのくしひなくも一夫の志業せ
うれわたりたふもたやまをうのしし汚らぬや
はと入るお國。きんしのかたしそりけられけり

のせいかくけつりすさうのやうな

ちんごのこいほののり

おろし丸丸世やくりりもそちんごの事は何の
ほへしとして上げのよさをくたもれさ大おちのて
りれきやうさじきもるけちんごのさの志やう
の中一将みりちりのつぬさやうれアしよきと
のらせうアんちつまさき人ぬさせうアしゆた
りらちん人とあひをしてこのおりりあいの
乃とてんして九条れれとまられりるよ一糸も
何一めすふ来まてそのあきけきせみてうり
下さなりらるるさやうちりるんり色も来ては由
とそう一アなれやさうきりまのいなとれりか

派の國のやののなとあつりあつととみよ
ウらゆぐアしきみしきさうら派すすお
ぬちんちんいままことゆすまらあらんを思
お力とうまらもの思ひをなりとまらばあ
そのやれとうひてうれを今うりさるん
もらぬくれわつひとのまけまありさ
の屋うなりしととやあつりさ
れ中一将みりちりのつれアされりるもいあ
を三ちやうれらまられとひらひく十二の
とらつといるりいもんや我てうり
わらんこありお都とんくさる
れまらうりくさいたい

又てう大細言くふりかなのつうんししよとまうりの
國と語くわうちんきうんくまうりへをわ國うの
らひ中さきさるんふりかなのまやうとこをさなる
ひなふ大福者老まてむらもれいけりちさられ
ひも一をさるよとよさぬるりなれともつうて
の國れけりんにうのまうらひ存のれアアまうらひ
そのらさる大しやうとこのなをわさるれを
ありまてうくれせれそれ乃中一は都うつり
そうまうつとをうのさうむらきすうらうわれり
とふりのまをさたりつとこしちまをわさりの文を
たうりきとくぬられとさふるれやも一ととぬ
らへてそのさうめらみりま物ももゆふられん

是ひく包り國とたすけた見とめくじよまうりて
なりされいさうらたのううさささじまうり張はく
はたたるのけい包とやうううせのひらんうい
らよ恵理ひうふこけひまをてもかんめうなる
まうりうさうらうのめそまやうらまのたひとた
てくまみんちうけしつらうらんをくや
て天下なみんけいあつとらもさささいいてん
あつとらうさやうさうらひいさくわなうらけ
むもまなんとのぬわうはくとも人りり
とく大もぬやうらうらうらふ事

おのり女一日はあむたひのうりけ一也あり
て同或八月十日湯上とて同或十一月廿七日湯せん

つらうそらためける少るふ部をのれゆあし今人
部をくんとせやうとあさあししし夜もよき秋
もたのてすまりまやうゆをほしよおほけり人
人を必ふ力とみんとてあさひや源氏のたゆれ
きつわをたらねほくもたよめ即一のうづつ
さひとくしゆさのきわ。れ湯屋をたふそゆたり
あらのよのむの丹れあきふをたりあてしゆれ
人とのりまうとよのこれんこそう見えあうとさ
らしてこの里させんつとみうらうやせひろさしれ
かぬのつこの里あゆなく原れ丹れみる中一も
さ大将をのていのつうつふまやあのかとひハ
丹十日のまうりふ入さお國ふいし海とてうらま部

るうを理上とまひりうらみらとらうもつひ
の丹とりのめゆふすくのれ板原見うのりりい
とさこやれく丹をみるくもぬおゆをぬのひ
のたさうとめほくとたつうとあまやあのかひ
ゆを力とらうあひ二人の男れたはしんぬれ力
みふとのぬかのよまり立王とるなふとくおと
こふれ丹りせい何一ゆまやをうらうんしひつた
のよとのじ志れく急ゆあまそとく何のきあふ
ふふれもみら力まむとさひつたしゆとならさう
かすうらうをこ見えゆとさしゆくのふは流くと
門あま志たり海上落あうしよもまうらうゆのさう
うけうらうのゆとくあれしてくたくとらうさ

きこらしのおへ
なありとてしきはいとうとあんふし
のほあけらるや
あんとりてきうん
女系の一とぶし
人もまれなる
さらくねくま
中世や大志や
大志をかり
みしき
あしき

のうり
乃おあり
ら
おひる
あひ
ふたり
あしき

茲人の包むありてあめよりとてしきしとてし
なんらとてしはるはつれとて大志やうちさる
らんさるれりりそれらとてそむくこのくら
也らんのとれ

海いもくさいのり

これ程に平家の人部うつりたはる海く夏ん
のいもくさいしともとねのうらまのへき
は平のうらよひらうしとて人られたるまふ
松一換のうらよひのまふりさうやうなれ又
るのむらうたる志ゆきよのうらるの松山の
たし人らうか人らうとのいふて文本とたと
やううしと一換とくわらふしと志まるとへるひ

あめれとんとなつあて松三十人ひは三十人六
人のひやう志強十人てひあめのうらとつとせ
られりらういむかせらるやれしとて時を
きす又とくあなる河とてあよとくそとらひり
つとてあはるらるやうといふと一もふとく
既程のもれくあもてぶとて入る路のそふま
は日のもくあつた中つとあはる人やあると
あひとれともむりやう人もあはるらりけ
とあつとひらうとては平のあつとてあつと
とあつとあつとあつとあつとあつとあつと
てあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

ひよりひのふりし絶ふあふさるるやとすれや一は
成て十らやうけつるもたびくうひ豊つる時を
あり又さうりしむらさきもあり子万れまははと
りて入るぬとふらみまかへさうもさる人ましれ
けりかれをさうらしむのつくらなやすらなうよ
ゆたくさもさすよらまればれをあかしの国
たうてふゆさうくくふわいし、可くそう勢もあ
れ又十回ふのまらんをさう百人のしあつての
みさうりふさりまきしうせりしけのまれのり中
まき天くまたれくわうひさり又一のるをすひ
ゆうして互られさりりさるの物ふねまえのす然
くひ一敷のうらよ子とうさたりりさうかうすえ

まればちさうのあくさうりさの國の住人夫もの三飛
うりちりのとうひの國うさぬゆうのういさるさ
あんしなりける馬のひさいがあつるまはれ
かぬりら母とたけりてやぬりあはたつてふてし
さうもなれさあてししきけりさびたの物ふねするん
まさしひ子とう見えさうさるさうかうまはれ七人
のさうのさうさうなれさうれあれし物もさうさく
まことそりゆるやうては馬さしあなれやさちの
さうらさうもてらんち天皇れ河まうの流るのおふ
ねらさうはくひ子とう見えさうさうも天下をたや
のりさうさうさうげんあまをみさうさう又あうさ
まはさうさうさうの源中さあんまらぬのりさ

はりのせりしあみこころる羨しく命さなれた
肉のちん死らんそと縁心とむねしつらなるお
うくたいしし好むるよらうのいくもかなと井と
せむせふらやうかこの屋うならぬけきけ違を
何もしせらじとさく種は産上はおけしちりり
上らうれれゆしやもさうきいふ急よては幸しち
平家のおつりりさうりはるせいの旅をいつの國に
我人しをともよたふしと作りのりたるやめあ
我亦しつらふれしちあけり人の平家の死こ
とすらやむししふさをめたせらゆくと云ゆ
江々く人まゆし我種よ入るお國のむ里さくしてそ
まよゆらうのせむせあのみなるめてゆめれとてい

らうはひりしせむさすひけうしとれちとあれし
ふあしこやうてらくてんしぬ入るさうのめでめ
ぬひたれをうしつれまやうかけうらむせらこ
てまこさうるさうりはるすとりんしとれり
とへるつりしとよひ終りすやうやれは山おし
志まねさしちやうへるけりしとれ人さく終く
ましく平家力うんせいのそすえお成ゆらとこよ
ぼくしあしげら上らうの平家力あつらむはるせ
けいふしとともよたふしと終のまりとていけ
終し八まんたがさうつていられはしとすらん
川あふさうしけり人の平家れなうとすうとれ
かりとれをうたせられくと見えらるやめがめつ

いし海よりそおほいすらすらしくしつづ
まさしやうしつづまうの才三れむんやうて
都とくさくふさむうまうくたひまてみもられ
けりしうぬちんたれとまうされけりうまをやと
ひまことのからよ入人をきんし城まきてまよ
ろこひまけまをまてしつづしひなりうの
ま山を入けひしあのおこしつづこ世かまのけ
やつろおをたるうやとあつてまかたれとも
まうりひおりまよれまうやうの事とも
たり平家を破れて廿一年たのみ所のを答と
今とたのしなること事しはまりたれまもまうい
けしやらんすおやきつしつづまをいけと

めしうをたれのみまやまのれなりしつづと
とまり

つづまもらうちん事
ま福亦おらう九月一日とうあくさうこの國の
任人たもの三詠のけりまやるとまてつづ
をりけりまつづれ國の任人たれひやうとのあ
ひのすけまらうととしつづとほうてうま時まさ
下まさいヌイまれ城しつづりてまんぬれハ
舟十七日れおらうあくらもくまつづみ判友の
ねたりをやあさのまらてしおらうぬ同ま女
白さうこの國おらうあくまひけちやとらまれ
のまをけりしつづますまれまてたうあくらうら

くはりのふとさぐりてふしとみりら
じろくらの二りあくらんりやうにひやうも
よかりて回ふ折三目れらるらくよちとよ
きと敷きすしせあたくりひの福ふひやうまの
すけいをけおまもとうしくせはさんうらあられ
てやひれささうしくこもりひぬ回さ二十回目よ見
うらのぬりうらうらうらあ面もれうらん
ししくおしとてあふ面もれうらうらうら
まゆぬこけがのうらうらうらうらうらうら
まゆふらあてじろくのらふひえちりそふひぬ
まゆのふえのたうらうらうらうらうらうら
とりとらうらうらうらあてひえうらうらうら

あしやうおおしよきてせんくおせあはぬまを
まごらましくさよおあてはりうらあれから三百よ
ま見えうらのらりまの満まを毎はりしひやう
えれすけ乃わと派たわねてうらうらうらうら
ひぬらそとらりけらる福よぬくけうらうらうら
のらと都うらりもらやひりさあぬわらえあははや
うぬ上人やまやうひせをあもれらうらうらうら
うらうらのらひふよのうらうらうらうらうら
うらうらまひ東國はあもやう小もやうたもんれや
くもやうらりやうらうらひひりひのたもやう
うらうらひひあれらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

乃こころと色つれざり入るらんらとつてなれり
ら源氏うらとらんきしとさしやうらんかして
きくじよとののひもれしぬてのまうせまいき
屋うとつてまか可中一ももしはよきやうた
つりつりふささししはのつてりへをらぬまさか
もりも一きあめめをらうゆらん志よの老とこを
ひつてつてうてさささうちんとしけのまうりり
つがく今更るがりとせんすうのたとやんもめ
ささしく大さしおとよひぬこらへやうそのも
おのらまかり入るりひりるをばじやう色のま
あらまきうんぬれ奉治・すそふらうりまをす入の
こちとこんげのせんよりのうさう一れおよよと

然さいよとよすうあやつりしを抄ん派志てた
うけよひりひてちとひさやともれまんすうり
しうあんがれちんうひさやの色のつてのゆさ
せのふつうりししうわりぬもひりよのあけ
れもあやししとむひのひくうともぬしうささ
ま本とひしをやふ島とさうひまか中一はり
あううしとんきのさしなひちんせんらんおゆ
おりありて池のみさしよさ記乃ぬりらるとさ
人のしとあれうたぬて素直とぬれせられをつり
てのさるさしと思ひたれせうんらんはれやま
うらこひりふきたしねけくあひしとさしんとん
さししそまうりつりなはれぬもひりまくと

ひろくそり連成つていさしてありとらたれしかのあ
りし中、清りんもそがらんらりきんしよきんうひ
てありとらとらんをうがれやりて志やくとた
まよアしとてふ佐おさうれくふりりなまあきの
中一のまうとるアしと云清畑たさうれのくひお
清きてそとおさうれびうとあーけさうさう是あさ
まの清らうとそあすたぐまう井れ種をそ清り
のくまんのあめなりよそれうとさの何一のや
あすといたれひあのを清まされ國なくさのふあり
うとどのひうとツとあよ一のくもありうてな
かくかみーのくてちりう人おとくれより人みん
とあがくうのきうとくんとらんうううとせん

しよと見えりりうらわのつみとひとひとくらま
らふも清あひにちととうしとあはしくやちんそ
さしとさびとのたつーのやまうわ大屋まのまう
しとぞりやのた後大とこれ海とつとそりの入らぬ
びやのこや田にりりれお戴ひろけささ大後野の
なふち後とよなりとんの大しんとりのけいりそ
のしよこうとあうのたのしちりまかのいちせ
い原原のらうせいまれちさこやとぬりうのてん
ともあ色のあうたうひのうとけひうつとぬひ
清とれうと源のうとちのうとさふあくととん
のつこよむはまてをれい二サよ人まりうれを
うつうとそとまいととけいりうとあまうとやみあ

しぬとまじうりんらん上のほらふうのえのうを
あぐとんふうけられりて我思いてうのせんせ
う張とくつゆおるせんろ太おらんもとくまうて
いよさられていふうのうとわうひるう十二年
あふ時太子らんをくまうていよのりくを我げん
あぐよ老母ありまげくくのやとんとのやでけん國
よ下まわれとみんをまのりくをくいりていあさ
わらひてぬさうひりくをなんらよとま張たも
む事しきさうし川の初ひうすれ町ららちち
をけしんとまうてしとそのおひりく町る太子
らん天よあふま張おうてねのそくも天らんら
まあうくのうとわうれに思をびるうの

乃たひうすれ此町ら白くなりて人かん國お
り包まいてくともみんとまのりくのめうをん太
しとまやうせんしやうをよりのしとゆわうの
ともうとまのりくのうらんらまのしとぬちん
らんおいてくちら入のうのみちとほめぬふらや
うらん三ぼりもわうくれひうとあまれを張
ふもしとれを馬お川の初ひてまうらうよまらう
うすの町のりちちをまらりて海おの本よるうり
ちくしうてふとうとまうくれしりし思やあ
まらんらんう包らさるるすれ思あて太子らんを
ゆらしとまんの國をそり包られらるまらうて
い太子らんをゆるしと本國へり包られりて事

ふたつかいひふ事よ思ひのたてちんのとふふらと
ひれ國あゆくをそとくとも中流ありけきうのひも大
のあり大河のうんすたり交らうつりわいこる
さきん人とけりもして大よにひりまほしけり
らん河れくくねんさきううひささふれうらあ
ねんすくううようるうう太子たんけいしをわい
あねふ中一のねんておうりりりされとととさ
つをりてじりひのさしむわいこけくたふた
ひうーえれ思ひとすうてううろとりありてみさ
その地のありまそけりならうら是もつうくの
むゆーれちりうらうらうてなりたりたん
りえあくまうらうておしうらとかくみく又とさ

うらまーくううてのちさおつりてまうい
せんさくううたのしけんけりがさるううら
ししけり事とめくうらもれもたのたん
あさおをれもんのけいつわいとととと
あうけりよてんくもりせんちやうとととと
もへ果りれとわいらひもれもせんちやう
やふうんさかおとよとつらをさおひあま
そりもなとまらさそよけ方つうくあうらなりた
るうねんひていけうよとの見ゆふの今やまら
ひらあらやうろくてつううもらなふ海しと
あそてむひのうらまへてはるうら天下と

らぬれとせぢん一もうらうらうとしよのうら
はらうも人おころしきむらひおきむらひらうら
なり扱もちうすすもふも一も一天下もも違あむ
あしめさううらうれなんす人のけらりもれぬさ
まよむせむし思ひの人をせやりてけいりくま
なるももころ本よつちうとうらめてくううう芳
まこれあくよんもれとつとちのあり是やと
と志んの國の老とけいりさのうらまうていんお親
お母らまやうといとげあがされて志んのうらぶ
よのありありありさうまうていんおおさん
しとくちりりんもれのあつととねてまうに
さうんとのまかさふ面あんれぶんとめたふししと

ひろうさうれらうひまやあつこのうらうらうら
ゆふ我まうなんすらんらうらひとせふ面あんら
びんうらうさうれたりまうすなんちあまう
ていとわうがす人さびさうらうらあんちりあう
るを扱よつとふよとらさうていれ太王よらあん
まうちに扱ふくひしうらんらうらんとれけら
をぬつしひつとらうんよまうらうらあんとせ
よままとあつとあつとあつとあつといえとけら
けらも扱あんれいしとくさうらうていんお
あふさうれてまうひれをも思よよまうすいよら
まて志のひんししまうすなんらあくまう
いけけあやまうまうらうらうらあ

たアんるりぢりもいしやもぢりありるアしきて
 かりららくひとりかきうりてそやいふけり又ちん
 ぬるうと云ぬありきとりのの國れきのまて
 山りるの十二の年おやののさき然うてえん
 此國をすまごそりたりけりいといりてむふ
 時や大乃男のせのまのしそみくむのぬ時えん
 とりそとつごうまけりこれおんもれりゆり
 と持きてけりありをえんのさし州のへたりけんひ
 川とりりてけりけしえんのぬるそひりひりさ
 うてんゆりしゆもぬをさうごうぬつらぬい
 てとけらひとりてんアんるりわりのげんいとあ
 びこしやそた子たんとこのふのひやるま福ふとを

わりの大つとふありてもんふまのゆりぬはひり
 えんれうりけりちてありさる由さうえんこご
 くれこちくさうてんかのめけりすうありこひて大
 一てうけおらんえりぬを人しとさうのなま
 志らえんまきせんとせり志のえんとすの
 へくえんれけのひとめえれりしせりまき
 甲そ部のゆりり一百万子三百七十一ちありや
 大ささし比より三つたつくはふのまきうあろ
 ねの河井ちけだうちるよらやうもさうさ
 けのせうれかへおじくられたり秋をとのひのり
 このさしまをうちへりぬはとのなれまひさ
 志さの乃さけりまきとてけいちるもさうんつせい

堀田と申きて下坂うんたりちありしとてりて母と
はぐりて金たつと申せはくれりちんちゆりていこ
ころのしんさいこねころのつさいあきらきことてこちあ
うからとんありぬらう口のり三十六まのやい
そころうていのさまもれりてんもつしりさう
とてくらりホーやくれあつてぬのけいから派屋かさ
三十四やうと五とあおお九らやうあおおあ
町いほくうれらと大ゆりの下あきふらやうれ
しんがこ坂たてとささうの移まふぬげとらり
えりてこよまのまたけいありちんぬぬう是とよ
こりらうむたぐしてやきうんひさのうてい
くことうひさのありとつうふいしあつれとわ

やいみちぬぬうとびりんふむありをともん
よらのけうすもんちんとも君のていりりよとあ
まとのひもれしりつりきりあきりあやぬや
うせんこの國れいやいまたがうひさくけくらう
きよとけいりてみるるむのいりくすもいひん
さ無とのしくさりまをわり海しおうれまを建
まよがうひてきよくえしとてりてさる者を
いまい建うの口のめとちあをさうきり
ぬいゆりよからひて上い見とらきのさ
はさいゆりやとれぬとられとまあれ
あきとらんもこさちあちんまの
おうをがうひはせんこの國のありてひうんをう

ねんしのちのへたさるひのうさよは
まのいありなまのいひなみこねとく
まうてふちまふとやあひしてやめてみらん
よとあじりさまのれそてひひのをまりて
とひひのちてふり子孫の共とと海上の神とつ
ぬこつをますくまんとすうよ力なりさ見えや
まんよとりされぬりんとりこそまけまき
こころうてのうまうらうまをこか人れひち
つまひのよらまやうぬ人とすをひなふさん
れいやりまてそびうけりそらまうていの
こくなりとておアとこのつとまと専らせよ
今十夜といわれふれぬさびとていんふの

ちやゆらちちかぬ人をせ尺のひやうぬと
くふびひりぎぬひりよまそはまのれさん
れぬもをもたふれはけくつりまぬもやぬら
とふ鳥をとらひけらまありいもんやうふ
ま今もいらとのそいあしよそねんそ
くひまふまひらんらんをねもあらうら
けのちやぼうしんらんもうつりてぬ
うたこれみくぬらとてくもとまぬ
ねて一まよくとそうきりれせまのひや
まのこもまこらまおとらうら
れらあぐりそてまけうくと色ひり
さうこもそひのまけらあいうらま

まうてつしむ愛ありておほいもれもあいにくひの
あふりける湯水のうてそをぬやひえさりてせち
やこのひあうふとひあもあのおねのこころのう
けまはらぬくまぬひつりけつるのうまてけさ
とるけりけまぬなりやもんのつりふちよと
中のあおふひうさびくもるのぬくりとふあつけ
くさよけれきとすまれかくろ海へけなうりさ
ちふしやまのあつぬのほいらぬなうりまて
うさりらとれえれせけいつしけさまらあま
もなげまじつげさてとおひせまらまうてひひと
ゆとまけぬふとやうよきてあつりまじへあき
くさうのれけまらんふぬりもまじまぬそのなり
てとくさしてる子らんをもげりがそれなりをん
とままれらさるるんすうとのを若もあつりさ
まらうれも今のひやうえれすけも思ふうり
まくうりすやふあひすらんもねぬのつらり
きんつく上人をまじしんらやうり事
うとくばひやうえりすけとつふまき年十回と
中し水磨元年三月廿日つづの國ほうてうひれ
のト海へたのされて二十まの表紙とくうりひり
ぬぬまもれをうりあめつりひれしし
あもくはひほんと思ひくまじりうそとをみ
日おまももしたうとのんく上人のすうめな
甲さそえの書々るは又書と中りやりてまじり

おたうさんとうさあんのーやうせんりちとん
子あをとうびーやまのふねに上さしとんゆん
のびーやあれあなり十九の年あさうう守思ひひ
れ女おしくねくりんあのをうーしあれやーお
入るトてふしくさくそーしあやうさけさ
ちりさば下たりとわアしあをひとこなりひて
そはけされりあよあんこちと云てさあひひさ
ーあまのううなるさーしうとひとあまたさ
びりくおちしもの下よくらあめしあぬりーと
されてあつたびあひまうんやりんがくあひひ
くるを思達あぬくふいよあやうとさうひてさ
あやんせいのかをなれまうくあさるあたりさや

城にびんとうさうんはとひらんさうのあひひて
何事ーあまアアーわあうせいとあもあひひつとあ
てらまんあやうやうのまてたあななりとそま
めあるある河階北ああ法住あぬあまうてあけう
あうまあ由とアトのまたりたれとああゆうのあ
アアトあひはあおあれああもれしりんあくあ
アとも人うまうあわうとああてりともあああ
才一のあうひつとまくしあたりやうてあはあ
内よアアア入てたしあひのあをわあうせあ
ふあああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ

ひびくちやまのこ

こころおぼせせしなるうくろきよしやうをせり母
こころたり海山のちんこししくおうしをせらぬ
少くし二せめんらくのたことちんまやうに
とびとらうちやう

されれんみまをちんはよくうたうしやうわ
うおののちやうはしはすとつををかのしやう
すいまりのくもあつくと海ひ十二ゆんもんふ
ねふにぬひふしうまのめつこめんかくの母れ
ひまをうたうふしさいまきこころおまんののそら
よあつツれをわくのめりさうれやあり日をやく
かけしちやうしれてんめらまきいんやうくは

こころえよぬりりふぬるらんうまやうあう
てりえんのみまといとせせんつこつこころ人
いりしはといをうえりえんらあくろののせ
免とまぬれんじとやあくよそんしんかくう
をらんかうらけうひまは衣とりとれとつをせ
くこころおしよたかくしうして目換おほくりちん
色んしすみくよあめてお書ふまごるつこまの
りぬ二とひ三ののくとたふのうをてたのく
ちやうのくまふあくらんやあめゆるうしを二
のちんしやうあちかくれましくうあちめぬ
めんをありしすいんましやうはけしこころ
てうたいれひうんよこころとせりなう

流由をよそんがくじちもうれくまんりん一後と
あざーや上下ちんうくのひちちんよもよかーゆ
たつれーやうせのふんごしちんてこりううく
わうのまいちやうとちゆせんとかれいろうもく
ううと山うのたわうーしてちゆやうせんの本と
急げぬうーたふちののりやちやうぐんとうの
こもとちくりんせんびやんてりて見えとあうひ
まいせんさうんてきたるうあうふちんかんて
やーてはううらんなくーしまふこせんあうーして
ちんーしのとありちもくまうまなうりとも御天
ぬあうびやしやううすやーさやたさうちよーや
うせさうしがうのよまおこーのちひらたてんうく

とくーちちちううーぬわぬとくしそつうーい
とんや一紙りんせんのはうさうおとつとやゆ
しそぬのさくそあんうちやうーゆさんうか
うまきゆくまんちびまんらひちんさんこみんち
むそいさうけうちぬんふぬのらまとうさひい
しくりんうー二世れのをみとたつさんうさふま
スーやうこやうちんうくわゆあさくくくー
ちのーしちんれうてなふいさうりぬらぬニちん
あうくの母とりてめそちんよてちまんちんちぬ
まやうのちもじさたひのちちんうー

治が二年三月日

ちやんちんく

うやまうーちとそよまあきくちせせんうまの

をんるんれ大改ちほひしうふかうーちう
う幾つふあせらうの大あん丁けく、のひひ
しほてぬうくさいけううこいれりひの
うこすけとれ且あんとちうる源おたまこひこ
位れ志くうりあうさうたやうとりくよう
ひておもちあうらとあれしほ定き清うんあては
けうこふくこりうーされらやう玉のまたまも
うよめふついさうきよんくうあをん志あ
おてう志もたうひさやうもこやみれえられぬ
何そのそらうせれなりけいさうと作せうる
れ種うきけまなふ事もりか、よあをんと
思ふこやことろ老さも我かしくせけーこがけ

のひひるれゆゆのうだうーあふそほ日
お糸しとやしあれとくーやたうとのらん
こちへ國ももーやうまくと一志よよせうせ
るさちんおをまうこん町くおうーとせなりよ
見うけらとちんるいんらうんまけゆふ又葉の
うこひけりんとてしうらあれとん町くらまん
びらやうととらなりーすけゆふ判友のえけり
ししうちやとーひゆをらうくうけよほふたふ
ますけゆふ志やう志うらあやとれとくとましれ
ちうまゆめくくと大ゆりの下るそくーあ入
りん町くもけりよるふおまきさうら町こかの七寸
けうまゆめらあふありなとのやうなるとせ

あつらひのふみぢいふらとらんとのをけりんせしうふ
ちりもたれたれよもあきらまんちんらやうんさよ
刃とりを何しよまひかこぬれと思ひもつりぬまを
の事しよしをありやりあうのてよかこぬれりり
くう屋うまをみしたりけりは皇もあつらよは
やの町一ればけります清ゆももやうらさちいぬ
清系中のあうとうたのめからすあいはよさかの
の國北垣人あんとうのむかた大夫たひのうは
まじちやあ力のあゆまてゆりふりちりよぬさてけ
とよるたひのひいよとさりてまぢんたしとおも
ひたれさかたししたれひのよてきんくのか
たおりちるえきのかいあそまうりふりうう

ちたりたれうこぬとらんあひたじあや右ひの
うらとりうきてくひやよてむとくじまんとく
そつていれなまうすひのひあひあをけけたう
あつてけひのあけのまぢんうめさりけりあ
ひのつりよふまもいよりのまぢりあひあよ
があよふなりうあひああはあうくあこいふ
あぢりあをけりあぢりあぢりあぢりあぢりあ
あさいしうぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあ
うしあぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあ
あさあひあぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあ
うしうらんともあぢりあぢりあぢりあぢりあ
あぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあぢりあ

あひのまじしなく念思ひまじり世一らんすうおと
三ついとをくらまたくまりわうをりたてものりる
るうり今よりちやうりす十せんていぬはうあ
るゆふやもらまうせんたひりおもひひなん
ほやま州のつれせめ減きよもぬぬつ建汚けす
れとくこれとる上里くろすりるやうてちや
うれちも包おたふちも包せ八人一でらんくく
ひあつて出けるのちやうのものをもせんやく減
ひふしアても出れお思ひたれを人のおをらやう
のそれのりんやくはみれひまたせられて出れ
そみくやうてやくちやうはふれひちんぬい
判發丁のせさともちやうししうりちやうせんお

くかふくくくくくくくくくくくくくくくくくく
れきんがくくくくくくくくくくくくくくくくく
一らうとくくくくくくくくくくくくくくくくく
そんがくくくくくくくくくくくくくくくくく
そのはひぬくくくくくくくくくくくくくくくく
しきりらるふちあくとくくくくくくくくくくく
どのアんりくとまひひひくくくくくくくくくく
ちんちやうとりてありふすあらんちんちんちん
くく思ひたん平家れわうり城と城はやちんちん
それきつてればははははははははははははははは
んくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
つしりりりりりりりりりりりりりりりりりり

を中岡此海神都のうりよとてさすさのうりうらになん
をんれせよとてつづの國をそなたのさねのりつとふ
たうそりなふみあー毎うのきくとせそを伴勢のな國
あれくは包のしまりのこりふこいアこつやう三
人とはまられたらりあきうあひのきらやうのさ
も包のりひうやうれ事おけふていこのは
つゝとこもく人いひひこの海をのさし預う六
めよあひてきんらくへたのさねのよよとけ人た
おもをぬもさんてふらうこいの物をもひ
たまん即こもさこつてさふんれんよようや
いさりのりれつとてさしぬとむらとこつ人
そつとつるつとと器て器をさたりつとあつこよ

このうらくぬうりてさすさのうりうらになん
張つねでわたりたりをせいふ等と物張きつ
ぬさゆらさしんちうけりてそをそをぬらぬら
そんつとさうたのそりちんこもゆりまうれびと
そとすすめいほる福よかりる夫の海をさしを
のひちりてさよとさん張つとてさしゆらめあふ
さあさんあくさうれてつてさつづの國をさかな
されうへとさんつとらうとされさのなほせぬ
よいほほのひよたふんこもさしとつとをさつふ
あつとてさつたまぬと書んさんすさつあ
ともしんやまよわらうらんせんもつとつらさ
つひのさる書あたらふらうのつとをさあさけらふ

ふうと申すもさうりうとせりんひくぞるまんをん
とぬくこの見下たれうてまたきよのようを
とて下とるものさうのぬらんをさうと
九十九ひ文のこびりかへかへかんかんを
けりおむりす大徳文がまをすお母とりら
の巻さんさすいさぬりんとお母のりら
残るとせともりのすお母とらり巻さん
さきぬいさぬりんとお母のりら
れす一或もくもんおんのさやうのりら
れひささのす念よまをぬれをさぬりら
ちるとさもすぬりらとさぬりら

たうとぬりんとお母のりら
お大徳のりらとぬりら
れよまやうとさぬりら
びも命にすりらとぬりら
えんりらぬりらとぬりら
海のぬりらとぬりら
しくぬりらとぬりら
まぬりらとぬりら
のりらとぬりら
ぬりらとぬりら
ぬりらとぬりら
ぬりらとぬりら
ぬりらとぬりら
ぬりらとぬりら

部ぶ乃わりてふふそのちんあちあう里うすんく
ワ一ぬんううすうれくんじな一くふさうしてとと
て部と出た一をいつれくふへけくまを女
一日ゆめ派たふものとの進をらん一かきうたり
たれときく一ふあもややくろくささんしたう
ぬりりり海くふあく人まをなりのまたりや
おゆゆる事一のおゆらうりくふれくおちこ
もつらうらうりうも十一月上一ぬんりの事や
りく一七日なさよう一進んと云たうんしをくこ
一て一日お三夜七日のるう一進りううけくあ
なりつる七日う一進んて二七日ううう一進あ
進たててもらんしううたかやめおむらもたう

てあなううさめて又一七進うた進たりすてふ三
七日一まらんすう船力を一見力をよけりてたさ川
せおおち入りのうよ一わらりなる進てをりて
うくましくひらそのきりりせんがくふれ時よん
りしきそゆられくくふみせんそま一うおら
くしをのりほ一まう一うてま一くくるふ
掌つうおあまをたうやとひあねと大志やうゆと
うのまの進けのひおんたのとうししととらたる
けさのまをいつらう一くしなうま未ととて
こ一まがまやう一よう勢はうらうくおなんふ
をうくまやうそのと志進は間大味ともうこ町
茶本ととひひつら親のおうらんまてうううらう

いふに此國は昔もなれをまゐらむうらんとう
赤國もあつらふてふこやのせりと云ふ所を
しるされしつと兵色のりてけりびししけり
ちりつるまの建事ししつとあひて京を中一の
町のつと平治もや小松ぬしむもあつはさ
くもまゝにしてこひなふ人まゝおとせしつと
うんりのすゑふなるやらしき年一の八月う
つぬつと源平あゑのうらとみら小治つんは
お軍のつらりらとる人もむくひをむかんと
て平家とほろほろあつちんのつとむんとい
思ひつらむややつひされさひやうとれぬり
よ

つとむよふのさ人まゝおほつれをそねも思ひ
とらぬ申やこつけれんあゝ余にたけられ
なりしつとむいひは流離二ゆよ見えたりて
ふとむもしやうやう一ゆきせんよのため
や急のうすらふらおたししつとつとるて
つとむつとての思ひたつとつとむひけきを
又まつとつとてつとるや天のたふれとつと
もつとつとつとつとつとつとつとつとつと
れつとつとつとつとつとつとつとつとつと
まんつとつとつとつとつとつとつとつとつと
是もつとつとつとつとつとつとつとつとつと
それつとつとつとつとつとつとつとつとつと

そつりふとのふくももくうらくさ海れつゝ此れ
帰らひよてありまうま海のはあくちやれつゝん
うのもれごとく一冊とれうりつゝとさんくさん
すうひのうそやう紙のけしよまかこしめらと
いふたひとふらひまきと、凡そあつて一こ
うもうりひのひぬらんをさんひくもふぬ
れたつふちほうこうの老くせうひらつたを
れたれや共志のすけ一ちやうとをたもつれさ
たれせらくのひつゝあさきくのなつひらふひと
？此種ふうげとつてまら後とそた。されちか
ばやうくうりもけてのひひりさうもくよ
まらと人の力とてちよひんととつて

そつりてのひふらつてふのひもれつゝそれと
又まきやうへとつて中一ゆら一をまらし共志の
すけあそつりよつて人のなりなう人のり
ふのうんとつゆらさんとのひも一うひもね
りんくそれを紙師の力とゆらまんと一やこ
そひつゝとつてめはあらんらふりん一ゆら
うんえのうらとつてふかあまらうくけの
ちんちん三日ぬんちんうりかまん一日上下七
日八日子よのひもししを福ハまらにまらて我
てうと海とて一やもふのひてつひりさそんあ
くはつりの海山おせ日らんらうのむらありの
ひらまて人だぬともまらすんうらうとて

と世を換地日る。はして上家福小三回とやうに
此らくも福原の志んといはく、此れはひやうを
乃きうのりしれつのもろつさのゆりさ
されしやうふ包打ちつさきりきんがくやうを
しるしとさうちよりのんとはふゆらされてゆん
きんとはふゆらそのなうとびほんとあて平家
をほりかきんとみゆらつさのやうに
ちきもとてこめられう幾つと月日のひらき
もさうのくしやもゆらんきすみつりき三つん
をすくと免られてむらう文おりやうありこの
ゆひたれをゆらしくはすのやうにさしてこれ
ひくはあはきりびりてはるれもきりはきり

てやうなるしやうとておられりきんがう
ふまてこれゆらぬと目し所井て下まらり
のすけちあはれはひりてはあひなる事し
おく我ゆらつりなりさうりあをんさうし
ゆらしたはくはるりりさよ七日とPゆねは
はつらつる國おけさうりたりをともやすけのゆん
ぢんよらてまはのやうとのすけたのめり
ろこひゆてまらゆらすくまのたうりやう
ふまてりしやうとてひらきゆらゆら
ひらき

項年一もらあのかく平氏とらとをる川と
てせんでらうよとてしる事なり佛は

てういぬほろあかさんとかのまをれつてうを祓
國なりそう池のむひからんて祓遣せめくたるり
りるのゆるよてうていりいまのほとすよさいの
るていぬうぬとあけの國家とめめんとす
そのみれりていぬとせすとなよ。はうしりれ
とせあてらうつを祓きのい。とよらう海りぎの
川さらよくせんの一。とゆとまかりもやくぬい
ちれ一ぬいとちう一ててうりのまをてまを志
そのよぬたすまうせんゆひやうやくぬほふほ
りりやうこうのらうさんぬぬきんてく力とく
て流てくあまてしてのまてぬたんきんくのい
とよいけてまのちりきんこのい

治政四年七月九日 かのうしふ光緒はう

さん上 かのひやう色のあん乃すけぬ
とそふさんてうやうてあめぬんせんとしりて
のゆくろふへりり何うのせんもとひるうの
られたりたるとそぬれる種よかくけりもを
うあくおせりれけのぬえれもうほてとくせや
て大御軍もあらんれぬおおまきり中一宮の
あむらりりさうまのりともくはり三人川おの
せい二万ふれ治政四年九月十八日 福原のちん
くぬんらてまうとよつた女也やうてともあくを
うううらてくまのまあんのてけじうとやうそ今
二十三よをたうまけらううさたひしいとよ書

のせらるゑはくこなしれされを治平天皇の志より
まふや幸ひきりてなすへくこまかりの
天皇の時討さぬはれつこまさをり力のいささ
このうとこりし時行しぬれつと深のりちの
いたりのなめつつそのおをもりきりし
まいとてさくけらるゑとつくりしわくろま入
ふとふかくひよりのあこころられれ
福よ平家や九重のしり志やうぬらておつ
うつふしはもびく聖つらぬおやとらこ
ねのともふたひねとぬらぬとをにてく
日つとあまも十月十六日ともすうれ國さよみ
つとさるうつふはふ都さしと業よまこがし

を海にうつしとるてけつらもせし七
ちんをいさしての山はしりみりし
れが将のつきの女とつとめひ川のそりま
ふとあしてへの國よこの川をんたはへし
ふまひあはしとてさよちりるを東國と名も本
さふつととこりなりひふとさうひてはりれしつ
さふつと二三十万にをよもれとらひはへん
たしせまんと死と中しなりしつひらりむ志
やせあふひやらう共ともよく馬も人をたの
おせあつしんてあえりしとぬらうの西せい
業はくまはふもまりもりすたくりたいとふ

ぶよのてく流から流すいせ流ふをくやららん
 ちーあらしせうしあらしとよひあらし
 程よ共之れすのしるすもつかく流せらての
 うの山うらよとせよ山よいう付る人うひとふ
 ねく源成くともを来よてひとけはなるすらの
 國うまし海のりりりてせいりろくあり流のうを
 せい坊義ふとそやせとせひとらりしとさけ太
 帝の所うしゑのちのりけしひよえりちて来包の
 ありけり流平流れおのまふひとあけり川のれ
 うとせくまよけあまをうもひねてみちり女
 のもと人乃あまありくあしりるまうとてとと
 てかりなりしりんくうふらんとのこつとつり

程よとのさくともひあれも下らうを空又面よま
 てしう物乃うま流を志してうんそれまうと
 志うぬいせ又面よまを海ひやらうまうひた
 らうそちりゆりすとよそ八日九日のるうと
 と流くひと野も山を海もりもみれびとやて
 んれあまきせとして人の中は流るを源しり流せ
 い二十百ふととらう中流つれと中けましうあ
 うとあれむうや太しやうらんの時むめれひと
 んひとら程や押しりうらるるりそなり今一目も
 うたかうはてととととととととととととととと
 うたかもしるの流あしうくまとのまうてひと
 流らたふおのはしととととととととととととと

たりのひはくもつらきはるがたをせしうらうらとすれを
あひそがふびちりすの國に極人有り。ものさいとう
をけしうらうのりるを平家れし。よは依りてと今悉
東國のあしがいやうりやうりやうりなれなりお
さうのきりやうりてれさうひのひや東國おんら
ほと大矢いれよのつらほのあさねもりちさ
よあさまらひてすのりや悉きさはそりなと城大
矢はれとびるめされのあまもは且けのふす
えうくそとけり終る人ともりあふ大やとすらや
うの若十えうくよおとらも依りてちも西人えん
かうしてひるもりけけよち大やとりていん
そよあひれ二三あうもれふねははたやうてす

ちやうりのもたてえ百えんおとらをゆあするすの
れうりおけちみらととくをりてよとすれお
るさなふらと西國へえんいのちのせういん
あつてい親うこれれも子をひえすそさい
みりかてのりよせさうこれをいおひやあをま
けりやうしてなよせなとあつしとさひをを
さびととりのひひやうらうつふおまを田はくつるの
つおさうてのりよせうへふおまをまこくうれ
えいまう親うこれんとれまを子をえんよとん
とすくこりうらんやすれからうとらやまわら
えりへありのれやもうされよ子をこうこま
人とおりあしくたくのひひりてたのの係良

く女百々に成しり

手おろしとふあ上ら路、事

おろしと女三回のうのあくよウー川まで源平た
うひよ矢のうせとさなめたりひりつと鞍をんけり
里小ヤ一れぬまにいくもおりのるるぬ馬をも
何小の押しろさたりらんかまんたつぬとつり
ほらおとのしじらおひくく一ぬさあひりる平
家の人くあもやなんしと鞍うらとあのひとれ
く小たつりすたなくつんよじらるもさしあひる
さうのち一ほる屋うふウーのあ一よりつりめし
あこのてまうのんらん我らぬあしおふよとと
こめらねてけつなふち一あつととひにたつらうか

それまことぬはあしとてとる物たらぬあをそ我さ
まうりと八幡がたれしめさたきのきうらひひ
正に兵とれとれも刀とらうやあまのやとと
まらにちやうふ二人とら一少りよ二人とら
ほさしてうそひのひわり馬渡を人ふりられ人のさ
まはは運ばりあつひをけなふら馬よばりてい
すれてうてせあふまともくいとめらるるりつ
まら一あうりおあつてとらとのをうりさ海に
るばりもねしつ一を海とむう幾世るさ東へし
すらもつりなふらとわさ海一たみとてうれぬん
ちのさあゆいりあしとたあゆうちよととむの
だりやきりあはさうよあるひをのりらけとられ

あつひきやう一をばられぬささけぬるうらの
のけしや同家は墨目うれはくよ兵士の丁けぬ
ま川みとよまきと時をばくられぬをぬいあき
もてすこきいりふとて人とけのししとて又せられ
てしこきいりちてひりくとしてすてとてふくたま
をどほてありくも老ききりあひやててありくも
老もありぬこきのらんよまきとてくもありり
りすとして一とてよやとて目らひくも兵士のぬ
はもちにたりくふとぬぬつて都のゆと三夜ゆと
つとてしこきいりちとてあつひきやうふありす
よくはまた太ふさうのぬしうひありとされぬ
ひりちやうてはぬとてせむぬされともせん

うもは海つうつすしそれらうつさくくもをひ
まのささけのりよまぬやなくもあうけく来るはが
ぬのいたうのゆうらんあうりやひるをぬれあさ
うーやせんらやうへひりふりての大ぬ軍力や
一とてしこきいりちとてあつひきやうふありす
うもは海つうつすしそれらうつさくくもをひ
まのささけのりよまぬやなくもあうけく来るはが
ぬのいたうのゆうらんあうりやひるをぬれあさ
うーやせんらやうへひりふりての大ぬ軍力や
一とてしこきいりちとてあつひきやうふありす
うもは海つうつすしそれらうつさくくもをひ
まのささけのりよまぬやなくもあうけく来るはが
ぬのいたうのゆうらんあうりやひるをぬれあさ
うーやせんらやうへひりふりての大ぬ軍力や
一とてしこきいりちとてあつひきやうふありす

あつひきやう一をばられぬささけぬるうらの
のけしや同家は墨目うれはくよ兵士の丁けぬ
ま川みとよまきと時をばくられぬをぬいあき
もてすこきいりふとて人とけのししとて又せられ
てしこきいりちてひりくとしてすてとてふくたま
をどほてありくも老ききりあひやててありくも
老もありぬこきのらんよまきとてくもありり
りすとして一とてよやとて目らひくも兵士のぬ
はもちにたりくふとぬぬつて都のゆと三夜ゆと
つとてしこきいりちとてあつひきやうふありす
よくはまた太ふさうのぬしうひありとされぬ
ひりちやうてはぬとてせむぬされともせん

じびちくへ入るる事
ことどもおののさそおのこししものたふやうれ
やふとひもさうひひふとひ神とひれりるす是う
ふとひのほめなる
るのち都り魚の事

今度の都りつりれ事
思ふされなるうへ
よちたふとやのち
ふとふん百とやうら
るる事

三つやとさうとやう
もいふうん月
おののち
るお國以下のも
さめめむりり
まはくまな
るく張やさん
しるし
おののち

ゆくしよとかならぬもれしつひをせしむらば
あつちのまき酒と茶とのいへばとてしつひに
さうれいといらり結のいへんかみかみらや
つてうたつたかきとむらうのうもく都うの
このやんいとさけをさうらんと山なをたらかく
しとぬらくうのるしもあれそつとくれ部本城は
さけて上らく一日者のちんよとらさけしあゆら
くすらるゆくゆがい程もさるうかこさみりそ
たやまのうねとさやりの事りさむむじさへ入る
けちらひのいへんさうらとてさうらとて
なんやのうらりのる
うたねかかんよのたしゆ念入まればむかんと

うたねかかんよのたしゆ念入まればむかんと
さよらつてしゆのらやうきんとあされ大流大
さんいふかきよのいへんさうらとてさうらとて
くろくさうのやうしてといよまをりしやうね
よらとてさうらとてさうらとてさうらとて
しとて休もれしとてさうらとてさうらとて
なんとさうらとてさうらとてさうらとて
きんたすけらのまき酒と茶とのいへんかみかみ
たりまき酒と茶とのいへんかみかみ
しとて休もれしとてさうらとてさうらとて
さうらとてさうらとてさうらとてさうらとて
さうらとてさうらとてさうらとてさうらとて

おのれはくはるる心もあらまきとてさういひてお
もひがれそれくちたふゆいよくほりさしてほ
しはくはるる心もあらまきとてさういひてお
まよきり入るのりあるとかなあてうてぬのおと
そりりる又ハハやくほりるお人ひさげくつこ
らぎのこんもやまのたうやそよくさほまうし
もやまもり入たうとまひけいさうおれくも
つたくくやちうはくしりしりせとほま
るくけくも悉の山とまううそくくくく
改た改まはるる心もあらまきとてさういひてお
おんくはるる心もあらまきとてさういひてお
こくもくくくくくくくくくくくくくくくく

改まはるる心もあらまきとてさういひてお
まよきり入るのりあるとかなあてうてぬのおと
そりりる又ハハやくほりるお人ひさげくつこ
らぎのこんもやまのたうやそよくさほまうし
もやまもり入たうとまひけいさうおれくも
つたくくやちうはくしりしりせとほま
るくけくも悉の山とまううそくくくく
改た改まはるる心もあらまきとてさういひてお
おんくはるる心もあらまきとてさういひてお
こくもくくくくくくくくくくくくくくくく

大御軍よりかへきたの御男衆人より志をひし河の
ま中一家のすけみちりり所とくまのまのつと
とくねりまやうひ大志やうまきりけきのつと
にきよりの川さの太麻判官とつねひのせの家の
義子おねのゆうとんとりてりつうびあいの三
良さ忠とんのせうありとふとをたてしを都令を
せい回るよまは源承宣年十月廿八日より有ん
とくまのつとれとれとれとれとれとれとれとれ
びよやち一のとらとらりゆまはといくまよま
やらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
よきてしとらとらとらとらとらとらとらとらとら
よきてしとらとらとらとらとらとらとらとらとら

弓のいひやうとらとらとらとらとらとらとらとら
しつとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
ねお入とれやとらとらとらとらとらとらとらとら
やうとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
びとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
大志ゆれとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
つとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

かーくすうく乃風すいしきよひまふてをかー天
りーみりくしてが力不を西くうるひまも
まのわたる見えだてまうる人きあふよまおあさの
てまびらふおほく人きまもそのさふもいふた志ぬと
うーおるりわつてうやうよとよりす天ちくちん
だんうも是福のやうあつをうりくしりかんとや
く空わつこうちんいぬまやうくちんちやうさゆ
もあつめや、やころささしまたまおらんをみえ
まが洲あうぢうあつの甚日大の群つり月を車をり
おがしりめくぬらちんさよの福さくららさうと
とぶねしうすのぬく露も過りつらみうささのの
りーれとともはてともうしひのさぬもさうりり

おほくすうく乃風すいしきよひまふてをかー天
りーみりくしてが力不を西くうるひまも
まのわたる見えだてまうる人きあふよまおあさの
てまびらふおほく人きまもそのさふもいふた志ぬと
うーおるりわつてうやうよとよりす天ちくちん
だんうも是福のやうあつをうりくしりかんとや
く空わつこうちんいぬまやうくちんちやうさゆ
もあつめや、やころささしまたまおらんをみえ
まが洲あうぢうあつの甚日大の群つり月を車をり
おがしりめくぬらちんさよの福さくららさうと
とぶねしうすのぬく露も過りつらみうささのの
りーれとともはてともうしひのさぬもさうりり

110X
123
9